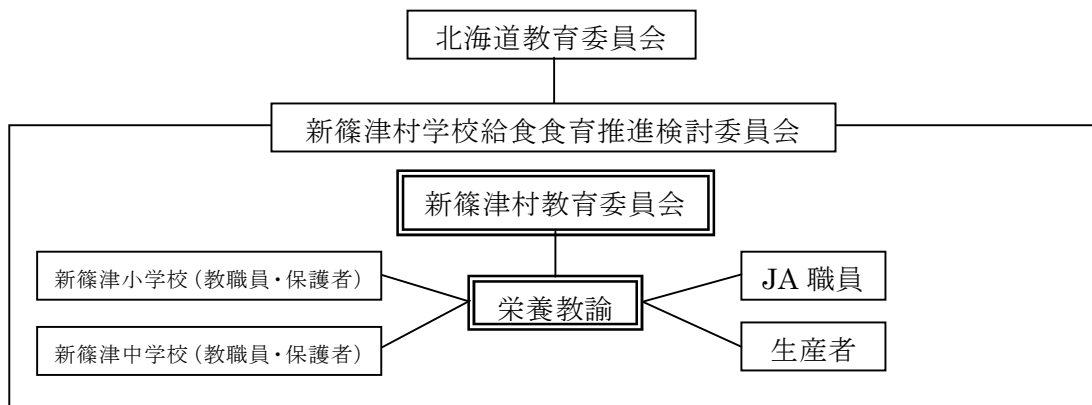


再委託先名	新篠津村
-------	------

1. 事業推進の体制



2. 事業内容

テーマ1	食への関心を高め、地場産農産物の活用率を向上させるための方策
1	<p>地域内ネットワークを活用した地場産農産物に関する情報収集等の推進</p> <p>【学校給食に係る意見交換会】（2月実施）</p> <p>(1) 対 象 地元農業関係者（5名）、栄養教諭他</p> <p>(2) 内 容 学校給食における地場産農産物の活用促進に向け、地元農業関係者が、学校給食を試食するとともに、栄養教諭との意見交換を実施した。</p>  <p style="text-align: center;">意見交換会</p> <p>【子ども食育教室】（2月実施）</p> <p>(1) 対 象 新篠津小学校 第6学年児童</p> <p>(2) 内 容 石狩管内サポート企業の講師を迎え、小麦について学習するとともに、地元レストランの料理長を講師に、地場産農産物を活用した調理体験を実施した。</p>  <p style="text-align: center;">子ども食育教室</p> <p>2 地元農業関係者と連携した農業体験学習の推進</p> <p>【小豆の栽培体験】（通年）</p> <p>(1) 対 象 新篠津小学校 第6学年児童</p> <p>(2) 内 容 地元農業関係者の指導のもと、種まき（6月）、刈り取り（9月）、脱穀・収穫祭（10月）を実施した。</p>  <p style="text-align: center;">小豆の栽培体験</p>

【米づくり体験】（通年）

- (1) 対象 新篠津小学校 第5学年児童
(2) 内容 地元農業関係者の指導のもと、田植え（6月）、稲刈り（9月）を実施し、交流校である札幌市立西岡北小学校に収穫米を贈呈した。



米づくり体験

【味噌づくり体験】（6月実施）

- (1) 対象 新篠津小学校 第6学年児童
(2) 内容 J A職員及び地元農業関係者の指導のもと、児童が味噌づくりを体験した。



そばづくり体験

【そばづくり体験】（通年）

- (1) 対象 新篠津小学校 第4学年児童
(2) 内容 地元農業関係者の指導のもと、児童が栽培・収穫したそば粉を使い、そば打ちや調理実習を実施した。



食育指導

3 栄養教諭による給食の時間における指導の充実

【食育指導】

- (1) 対象 新篠津小学校 全学年児童
(2) 内容 栄養教諭が、給食に使用されている地場産農作物や、食材に含まれる栄養等について説明した。

テーマ2

学校給食の食べ残しを減らすための食に関する指導の充実

1 児童の給食への関心を高める取組の推進

【行事給食の実施】

(1) セレクト給食（7月実施）

- ・自分自身で献立を選択する取組を通して、食に対する興味・関心を高め、これからの食生活や自己管理に役立てることをねらいとして実施した。



鉄板焼き給食

(2) 鉄板焼き給食（10月実施）

- ・地場産農産物を積極的に活用するとともに、給食の形態を鉄板焼きにすることにより、大勢で食べる楽しさを体験させることをねらいとして実施した。

(3) リクエスト給食（1月実施）

- ・リクエストメニューアンケートにおいて希望の多かった献立を、給食に取り入れるとともに、アンケートの記入を通して、これまでの給食を振り返り、食に対する感謝の気持ちをもたせることをねらいとして実施した。

(4) バイキング給食（2月実施）

- ・第5・6学年を対象として、バイキング形式で食事をする事により、自分でバランスのとれたメニューを、選択できるようにすることをねらいとして実施した。

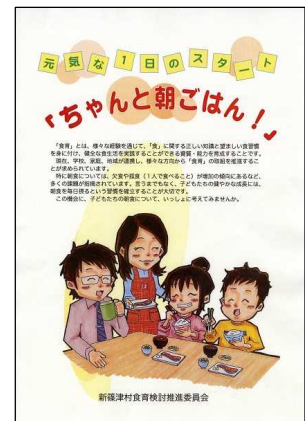
2 家庭と連携した朝食を食べる習慣の育成

【朝食に関するアンケート調査】（12月実施）

- (1) 目的 児童一人一人が、成長期の大切な時期にしっかりと朝食をとり、心身ともに健康な生活を送ることができるよう、朝食の摂取状況等を把握し、効果的な食育の取組に役立てる。
- (2) 対象 新篠津小学校に在籍する全児童の保護者
- (3) 内容 3日間の朝食の摂取状況等について調査し、実態の把握と分析を行った。

【啓発資料の作成・配付】（2月実施）

- (1) 目的 朝食に関するアンケートの結果分析をもとに、保護者向けに啓発資料を作成・配布することにより、望ましい食習慣の育成に役立てる。
- (2) 内容 「朝食に関するアンケート」の結果や傾向及び「朝食づくりのポイント」・「アイデア朝食レシピ例」などを掲載した。



啓発資料

【保護者を対象とした学習機会の提供】（2月実施）

家庭教育講座「ちゃんと朝ごはん、元気な1日のスタートのために！」

- (1) 対象 保護者、学校関係者、行政関係者等
- (2) 内容 北海道文教大学講師の手嶋哲子先生による講演会を実施し、朝食に必要な栄養バランスのポイントを通して、子どもが元気に育つ食習慣の定着について考える機会とした。



講演会

テーマ1～2に共通する具体的計画

1 発達段階に応じた食に関する指導内容の積極的発信

- (1) 家庭（保護者）に対する発信
 - ・各種通信による発信（給食だより、保健だより、学校だより等）
 - ・PTAと連携した発信（地区懇談会、PTA研修活動）
- (2) 地域に対する発信
 - ・地元農業関係者に対する農業体験学習や意見交換会等を通じた発信

- 2 朝食を毎日摂るなど、規則正しい食習慣の確立に向けた取組の推進
 - (1) 生活リズムチェックシート（道教委作成の児童アンケート）の活用
 - ・朝食摂取率の確認（第4学年：99.5%、第5学年：100%、第6学年：92.9%）
 - (2) 朝食の摂取についての啓発資料の作成
 - ・バランスのとれた食事の重要性についての啓発
- 3 食事を通して豊かな心と好ましい人間関係を構築する取組の推進
 - ・親子の料理教室、リクエスト給食、バイキング給食の実施

本事業における評価指標と考察

- 1 小豆栽培や米づくりを地元生産者と連携して実施することにより、児童の農業に対する関心やふるさとを愛する気持ちに高まりが見られた。地場産農産物については、天候不順のため作物が十分成長せず、活用できなかった。
 - ・児童アンケート：「農業に対する関心が高まった」：95%
「郷土を愛する気持ちが高まった」：100%
- 2 各家庭における朝食の内容の傾向をアンケートにより把握し、課題解決に向けた取組等について啓発を行ったことにより、朝食の摂取率や残食率に改善が見られた。
 - ・朝食の摂取率（97.5% → 98.7%）
 - ・残食率（23.0% → 18.0%）

本事業の成果

- 1 事業推進に向けて、栄養教諭を核として学校関係者と地元農業関係者が連携を図ったことにより、栄養教諭がこれまで実施してきた取組と、児童の体験活動の間に有機的なつながりが生まれ、食育に関する指導計画の一層の具現化が図られた。
- 2 農業の専門的な知識を伝えることができる地元農業関係者等の外部指導者を活用し、農業体験等を実施することにより、児童の農業に関する知識・理解が深化するとともに、地元農業に対する関心を高めることができた。
- 3 児童に対する栄養教諭の指導や体験活動の実施、保護者に対する啓発資料の作成・配付により、学校・家庭・地域が一体となって、児童の望ましい食習慣の確立に向けた取組を進めることができた。

今後の課題（今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題）

- 1 栄養教諭が中核となり、地域の関係者が一体となった食育が推進されるよう、ネットワークを構築し、関係者による情報交換の場を設定する必要がある。
- 2 地場産農産物の給食への使用に関わる多くの関係者を調整するコーディネーターの役割を、どの部署が担うのかを検討する必要がある。